CASBEE札幌(ver.1.0)

市立札幌開成中等教育学校

■使用評価マニュアル: CASBEE札幌(ver.1.0)

■評価ソフト: CASBEE_Sapporo2007v1.0

スコアシート 重点評価項目 : W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理

配慮項目	重点評価項目 W	重点評価項目 G	重点評価項目 S	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質・性能									3.2
Q-1 室内環境						0.40			3.4
1 音環境					3.4	0.15	–	–	3.4
1.1 騒音					3.0	0.40	–	–	
1 暗騒音レベル					3.0	1.00	3.0	–	
2 設備騒音対策					–	–	–	–	
1.2 遮音					4.1	0.40	–	–	
1 開口部遮音性能				遮音を必要とする室の開口部はT－2相当としている。	5.0	0.40	3.0	–	
2 界壁遮音性能					3.0	0.30	3.0	–	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				L－55相当のスラブ厚及び床材を採用している。	4.0	0.15	3.0	–	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				L－55相当のスラブ厚及び床材を採用している。	4.0	0.15	3.0	–	
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	–	
2 温熱環境					2.6	0.35	–	–	2.6
2.1 室温制御					3.0	0.50	–	–	
1 室温設定					3.0	0.60	3.0	–	
2 負荷変動・追従制御性					–	–	–	–	
3 外皮性能	W				3.0	0.40	3.0	–	
4 ゾーン別制御性					–	–	–	–	
5 温度・湿度制御					–	–	–	–	
6 個別制御					–	–	–	–	
7 時間外空調に対する配慮					–	–	–	–	
8 監視システム					–	–	–	–	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	3.0	–	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	–	
3 光・視環境					3.8	0.25	–	–	3.8
3.1 昼光利用					4.2	0.30	–	–	
1 昼光率				講義室は大きな開口面積を確保している。	5.0	0.60	3.0	–	
2 方位別開口					–	–	3.0	–	
3 昼光利用設備	W				3.0	0.40	3.0	–	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	–	–	
1 機器類見込みグレア					–	–	–	–	
2 昼光制御	W				3.0	1.00	3.0	–	
3.3 照度					3.0	0.15	–	–	
1 照度					3.0	1.00	3.0	–	
2 視覚効率性					–	–	–	–	
3.4 照明制御				講義室は黒板灯・全般照明前側・同後側で点滅が可能。	5.0	0.25	3.0	–	
4 空気質環境					4.2	0.25	–	–	4.2
4.1 発生源対策					5.0	0.50	–	–	
1 化学物質汚染				使用建材はF☆☆☆☆の材料を採用し、他VOCにも配慮している。	5.0	1.00	3.0	–	
2 ダスト・ペスト対策					–	–	–	–	
3 カビ・カビ等					–	–	–	–	
4 レジオネラ対策					–	–	–	–	
4.2 換気					3.0	0.30	–	–	
1 換気量					3.0	0.33	3.0	–	
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0	–	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	–	
4 給気計画					–	–	–	–	
4.3 運用管理					4.0	0.20	–	–	
1 CO_2の監視					3.0	0.50	–	–	
2 喫煙の制御				校内は全面禁煙としている。	5.0	0.50	–	–	
Q-2 サービス性能					–	0.30	–	–	3.3
1 機能性					3.2	0.40	–	–	3.2
1.1 機能性・使いやすさ					4.0	0.60	–	–	
1 広さ・収納性					3.0	–	3.0	–	
2 高度情報通信設備対応					3.0	–	3.0	–	
3 バリアフリー計画				建築物移動円滑化基準(最低限)を満たしている。	4.0	1.00	–	–	
1.2 心理性・快適性					2.0	0.40	–	–	
1 広さ感・景観					1.0	0.50	3.0	–	
2 リフレッシュスペース					–	–	–	–	
3 内装計画					3.0	0.50	–	–	
2 耐用性・信頼性					3.4	0.31	–	–	3.4
2.1 耐震・免震					3.8	0.48	–	–	
1 耐震性				耐震基準の20%増の耐震性を確保している。	4.0	0.80	–	–	
2 免震・制振性能					3.0	0.20	–	–	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.33	–	–	
1 外壁仕上げ材の補修必要間隔	W				3.0	0.29	–	–	
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	W				3.0	0.12	–	–	
3 配管・配線材の更新必要間隔	W				3.0	0.29	–	–	
4 主要設備機器の更新必要間隔	W				3.0	0.29	–	–	
2.3 適切な更新					–	–	–	–	
1 躯体・躯体・外壁仕上げ材の更新					–	–	–	–	
2 配管・配線材の更新					–	–	–	–	
3 主要設備機器の更新					–	–	–	–	
2.4 信頼性					3.2	0.19	–	–	
1 空調・換気設備					3.0	0.20	–	–	
2 給排水・衛生設備					3.0	0.20	–	–	
3 電気設備					3.0	0.20	–	–	
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	–	–	
5 通信・情報設備				メタル回線(一般及び災害時専用回線)と光回線(情報及び光電話)。 また別途備品対応で防災無線(マスト・空配管は本工事)	4.0	0.20	–	–	

CASBEE札幌(ver.1.0)

市立札幌開成中等教育学校

■使用評価マニュアル: CASBEE札幌(ver.1.0)

■評価ソフト: CASBEE_Sapporo2007v1.0

スコアシート 重点評価項目 : W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理

配慮項目	重点評価項目 W	G	S	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み係数	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体
3 対応性・更新性					3.3	0.29	–	–	3.3
3.1 空間のゆとり					4.0	0.31	–	–	
1 階高のゆとり				各階の階高は3800mm以上確保している。	4.0	0.60	–	–	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率は0.13としている。	4.0	0.40	–	–	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	–	–	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	–	–	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17	–	–	
2 給排水管の更新性					3.0	0.17	–	–	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11	–	–	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11	–	–	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22	–	–	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	–	–	
Q-3 室外環境(敷地内)					–	0.30	–	–	3.0
1 生物環境の保全と創出		G			2.0	0.40	–	–	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		G			3.0	0.20	–	–	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.40	–	–	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			S	昇降口に庇、ピロティを設け、職員室から見通しもよく、中庭も設けている。	5.0	0.50	–	–	
3.2 敷地内温熱環境の向上	W	G			3.0	0.50	–	–	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR-1 エネルギー					–	0.40	–	–	4.6
1 建物の熱負荷抑制	W			外断熱工法、窓ｶﾞﾗｽのLO-Eｶﾞﾗｽ採用により熱負荷抑制。	5.0	0.30	–	–	5.0
2 自然エネルギー利用				自然採光の採用。	4.5	0.20	–	–	4.5
2.1 自然エネルギーの直接利用	W			中庭等からの自然採光の採用。	4.0	0.50	–	–	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		S	太陽光発電パネルの設置。	5.0	0.50	–	–	
3 設備システムの高効率化	W			温水の変流量制御による、ﾎﾟﾝﾌﾟのｲﾝﾊﾞｰﾀｰ運転。	5.0	0.30	–	–	5.0
4 効率的運用					3.5	0.20	–	–	3.5
4.1 モニタリング	W			電気量、水道量、ガス量等の集計	4.0	0.50	–	–	
4.2 運用管理体制	W				3.0	0.50	–	–	
LR-2 資源・マテリアル					–	0.30	–	–	3.5
1 水資源保護					3.0	0.15	–	–	3.0
1.1 節水	W				3.0	0.60	–	–	
1.2 雨水利用・雑排水再利用					3.0	0.40	–	–	
1 雨水利用システム導入の有無	W				3.0	0.67	–	–	
2 雑排水再利用システム導入の有無	W				3.0	0.33	–	–	
2 低環境負荷材					3.6	0.85	–	–	3.6
2.1 資源の再利用効率					3.3	0.35	–	–	
1 躯体材料の再利用効率	W				3.0	0.67	–	–	
2 非構造材料の再利用効率	W			中庭に再生木デッキ材、屋上の一部に防水層保護マット敷き。	4.0	0.33	–	–	
2.2 持続可能な森林から産出された木材	W				2.0	0.04	–	–	
2.3 有害物質を含まない材料				環境配慮型の接着剤、塗料、塗り床材を採用。	5.0	0.08	–	–	
2.4 既存建築躯体などの再利用	W				3.0	0.18	–	–	
2.5 部材の再利用可能性	W			躯体と仕上げの分別が容易。内装材は容易に取り外し設備の更新等がしやすい。一部鉄骨躯体、LGS等再利用可能な材料を使用。	5.0	0.18	–	–	
2.6 フロン・ハロンの回避					3.3	0.18	–	–	
1 消火剤	W			フロンガスを使用していない。	4.0	0.33	–	–	
2 断熱材	W				3.0	0.33	–	–	
3 冷媒	W				3.0	0.33	–	–	
LR-3 敷地外環境					–	0.30	–	–	2.5
1 大気汚染防止	W				3.0	0.15	–	–	3.0
2 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.10	–	–	3.0
2.1 騒音					3.0	0.33	–	–	
2.2 振動					3.0	0.33	–	–	
2.3 悪臭					3.0	0.33	–	–	
3 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.10	–	–	3.0
3.1 風害の抑制					3.0	0.70	–	–	
3.2 日照阻害の抑制					3.0	0.30	–	–	
4 光害の抑制					3.0	0.05	–	–	3.0
5 温熱環境悪化の改善	W	G	S		1.0	0.30	–	–	1.0
6 地域インフラへの負荷抑制					3.6	0.30	–	–	3.6
6.1 雨水処理負荷抑制	W				3.0	0.30	–	–	
6.2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.10	–	–	
6.3 交通負荷抑制				適切な量の駐車スペースを確保し導入口は通学路と分離している	5.0	0.30	–	–	
6.4 廃棄物処理負荷	W		S		3.0	0.30	–	–	

■ LR-1 用途別得点表		学校	–	–	–	面積按分
		14,405 m2	–	–	–	総合スコア
1 建物の熱負荷抑制		5.0	–	–	–	5.0
3 設備システムの高効率化	ERRによる評価	5.0	–	–	–	5
	個別設備による評価	–	–	–	–	
3.1 空調設備		5.0	-	-	-	-
3.2 換気設備		-	-	-	-	-
3.3 照明設備		5.0	-	-	-	-
3.4 給湯設備		-	-	-	-	-
3.5 昇降機設備		-	-	-	-	-